

小論文（表紙）

氏名	フカナ	受験番号	※記入不要

(小論文論題)

2022年度 一般入試（春）

以下の論題から1つを選択し、所定の記入用紙3枚以内で記述してください（図表添付可）。

論題 1

ある家計の効用水準を u 、財 X の消費量を x 、財 Y の消費量を y 、効用関数を $u = a\sqrt{x} + by$ とする(a と b は正の定数)。そして、財 X の価格を p 、財 Y の価格を q 、所得を m とする。このとき、財 X の価格が p_0 から p_1 に変化した場合の「等価変分」と「補償変分」を求めよ。なお、これらを求める際に、効用水準 u は(p_0 や p_1 に対応する)間接効用水準(間接効用関数の値)で計算せよ。また、計算過程を簡潔に記述して、参考文献を使用した場合、それらを必ず記載すること。

論題 2

トクビル著『アメリカのデモクラシー』松本礼二訳(岩波文庫, 2005年)には、「地域自治の制度が自由にとってもつ意味は、学問に対する小学校のそれに当たる」とある。あるいは、ブライス著『近代民主政治』松山武訳(岩波文庫, 2000年)には、「地方自治は民主政治の最良の学校」とある。トクビルとブライスのこうした主張について、わが国の市町村における地方自治への適用可能性について論ぜよ。なお、他文献からの引用や抜粋については通常の作法に則ること。

論題 3

地域間所得格差と地域間人口移動の関連性について説明しなさい。理論的に考察しても、具体的な国・地域を取り上げてデータに基づいて考察しても良い。

論題 4

2021年のノーベル経済学賞は「自然実験」の分野で実証研究のフロンティアを切り拓いた3人の経済学者が受賞しました。これに関し、(1)の記事からこれら受賞者の貢献について整理し、(2)の論文からは、問題意識・データ・分析手法・結果解釈について、自分なりにまとめなさい。(日本語で合計2000字以内)

- (1) The Economist (英エコノミスト誌) 2021年10月16日号p.70 “The Nobel prize in economics celebrates an empirical revolution”
- (2) David Card and Alan B. Krueger. 1994. “Minimum Wages and Unemployment: A Case Study of the Fast-Food Industry in New Jersey and Pennsylvania” American Economic Review Vol.84, No.4, pp.772-793

* 選択した論題の欄に○を記してください。

論題 1	論題 2	論題 3	論題 4

※記入不要
